

メインテーマ:

災害が起きたときの行動をサポートする

テーブルNo: 3

ファシリテーター: 政木 英一(国際航業(株))

議論の観点(実現するために考えること)

- ✓ どのような単位の地域コミュニティにするか
- ✓ 市民生活に役立つことはなにか
- ✓ 市民参加を促すにはどうしたらよいか
- ✓ 行政の運営に役立つものはなにか
- ✓ 市民生活の更なる充実を目指す

などなど

1. 落ち着いて行動するための支援ツール

✓ 課題:

特に、災害初期フェーズにおいては、情報を五月雨に流しても、人は勝手な行動をとる(モラルや知識は個人差がある)→結果、混乱する。

✓ 課題を解決するアイデア:

安心感を与える情報の配信(余裕があれば人にやさしくできる)

✓ 必要なデータ(それはどこが持っているか):

- ・Staticな情報
 - 電源情報(供給量)、EV情報(スマートシティの場合)
- ・Dynamicな情報
 - 避難場所・状態情報、避難経路情報
 - Publicなスペース(駅、地下街など)情報
 - どこに泊まればよいか情報
 - 物資の供給情報

行政が保有して
いて、問題なく
出せるはず!

✓ その他

- ・災害の規模に応じた情報(避難所情報等)を提供することが重要!
- ・HPやスマホ等でリアルタイムに提供することが重要!

2. 被災者のための支援ツール

✓ 課題:

- ・要援護者はひとりでは避難できない
- ・要援護者が誰なのかがわからない
- ・たまたまそこへ訪れていた人が、災害発生時にどこにいたかがわからない

✓ 課題を解決するアイデア:

地域のくくり(町内会等)で、被災者を把握するコミュニティサービス

✓ 必要なデータ(それはどこが持っているか):

- ・要援護者情報
- ・避難訓練情報(普段から学習することが重要)

行政が保有

親しい人情報(地域外)

・通信事業者
・ソーシャル情報

✓ その他

- ・個人に関する情報ではあるが、地域のくくりの範囲内で、非常時には共有できる仕組み(パーソナルデータのハンドリング)が重要!
- ・Dual Useで利用できる仕組みが重要! → 日常的に使える仕掛け